

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 11 月 3 日（祝） 18 時 23 分～19 時 58 分

場 所：三日月公民館

出席者：14 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※配布資料確認および日程説明
3. 今年度のまちの動き（資料①）
※質疑応答
4. これからのまちづくり（資料②）
5. 懇談
6. その他
(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）
※質疑応答
7. 閉会

《質疑応答》

【自動車運転免許証の自主返納支援について】

町民：

運転免許の更新時に、強制的に返納しなさいと言われた方は、自主返納支援の対象になるのか。警察に言われて返すのは自主返納に当たらないのではないのか。

福祉総括：

自主返納には更新時や、警察に言われて返すものも含まれる。

町民：

それならば自主返納という表現はやめて、返納だけにした方が分かりやすいのではないのか。

町長：

何かの機会に、分かりやすい表現にして周知するよう担当に話をする。

【栗山高等学校について】

町民：

日赤病院の町民アンケートは町民全員に配ったのか。

栗山高校存続のアンケートは学生に聞いたほうが良いのでは。

町長：

日赤病院のアンケートは全世帯に配布し、回答が 1 割程度だった。

栗山高校のアンケートは中学生に聞いた。

町民：

難しいと思うが、栗山高校に行かなかった学生に、どうして栗山高校を選ばなかったか聞くことができれば早いのでは。

教育次長：

栗山高校については、栗山中学校の生徒と保護者にアンケートを行った。回収率はほぼ100%。高校選択にあたってどういうことを重視するか聞いた項目では、学力・部活動・校風などの回答が多かった。栗山中学校卒業生の大半は栗山高校に進学しておらず、ほとんどが岩見沢方面へ進学している。教育委員会では小中学生の学力向上を図っているが、学力が高くなると岩見沢方面の高校に進学してしまうというジレンマがある。空知管内・北海道全体の少子化が進み、岩見沢東高校も定員割れするなど、入りやすくなっている状況がある。また、部活動の関係で学校を選ぶ子どもたちもいる。そのような状況の中、数年ぶりに栗山高校から国公立大学に進む生徒も出ている。栗山高校が今のまま、普通科のみでいいのかという議論もある。三笠市は特色のある学校づくりをして非常に人気が高いが、一方で地元の学生が1人もいないという状況にある。栗山高校の魅力づくり委員会を設立し、学生から選ばれる高校にしていくため、中学生と保護者にアンケートを行い、結果の分析をしている。

町長：

栗山高校については、選ばれる、魅力ある高校にしなければならない。

【栗山赤十字病院について】

町長：

一番大きな問題は日赤病院の問題。もし建て替えと方向付けをしても、実際に病院ができるまでには7～8年かかると言われており、それまで病院の建物がもつかという問題もあるため、今年度中に方向付けをしなければならない。まちづくり懇談会で出た意見では、他の市町村とお金を出し合って総合病院を作るべき、地域連携できるのであれば町内に病院がなくてもいいという意見や、今より規模が小さくても、町内に総合病院があったほうがいいのかという意見もある。5年前に今の規模の病院建設を仮定した試算では、約70億円から80億円かかるといわれた。現在は建築費が高騰しており、さらに費用がかかるため、規模をもう少し縮小するなど財政のことも考えなければならない。建て替えの場合、町の負担はおおよそ3割、約20億円から30億円ほどになる。これを分割払いしていくことになるが、その費用をどう捻出するかという問題もある。

町民：

病院が町内にあるのに越したことはない。

町民：

私は日赤病院の循環器科にお世話になっているが、それなりの患者数はいると思う。夕張市や由仁町などが診療所になったことで、栗山町に通院している患者もいると思う。

長沼町・南幌町は札幌圏を向いており難しいと思うが、その2町を別にしても、夕張市と由仁町と栗山町で、協力して数字を詰めていけば良いのではないかと。現在の11の診療科は最低限必要なのではないかと思う。

福祉総括：

夕張市からは8%、由仁町からは7%の患者が入院している。通院では、夕張市7%・由仁町からは10%程度いて、岩見沢市や札幌市に行く方もいるが、そのくらいの患者が町に通院・入院している。国は将来の人口減少に向けて病院の縮小・統合の方向性を示している。どこの病院も将来は厳しい状態にあり、南空知の病院のほとんどが老朽化している。南空知圏域で保健所が中心となって、病院統合やダウンサイジングを進めていくよう、要望も出ている。

【農業に関して】

町民：

産業振興課にさらさらレッドのバックアップをしてもらっている。農産物を売ることに、産業振興課、農業振興公社、ブランド推進課、商工会議所など、それぞれ縦割りで動いてくれているが、横の連携がない。それぞれの課がそれぞれの予算で動いているため仕方がないと思うが、情報共有が弱いと思う。もう少し横の連携をしっかりといただいて、戦略的に動いてほしい。消費者が求めているのは、いろいろな野菜が栗山にそろっているということだ。マルシェやオーロラタウン、東京でのイベントも頑張っているが、もっと連携できることがあるのではないかと思う。

町長：

町民から見えていない部分もあるが、連携はしている。大通りや代々木、オーロラタウンのイベントに実際に参加してきたが、ブランド推進課・産業振興課などが連携して、出展者の方とも協力して活動していた。より戦略的にやっていけば良いと思っている。栗夢プラザのマルシェは起爆剤になると思う。農協のレンガ倉庫を改築するが、市場的な催しをできるようにしていきたい。町から出てイベントなどに参加することも大事だが、栗山の野菜を求めて町外から人が来るように、戦略的に行っていきたい。

産業総括：

ご指摘いただいたことを踏まえ、しっかりと連携して進めていきたい。

町長：

東京都で販売したときは、東京栗山会の方が毎日来て協力してくれた。栗山町のブースは非常に人気がある。イベントの時期的に、町の新鮮な野菜をたくさん出せないということはあるが、町産の野菜は東京都でも札幌市でも非常に人気がある。もっと発信していければと思う。

町民：

種いもがナンバーワンと言われているが、商品に対するアピールが弱いことが気になる。玉ねぎやかぼちゃとセットにするなどして、アピールしてほしい。以前はイベント

でさまざまな種類の野菜を扱っていたと思うが、今は担当者の扱うものだけになっているような気がする。

【北海道介護福祉学校について】

町長：

介護福祉学校を卒業した後、就職は町外に行く人が多く、どうして栗山町がそこまでお金を使うのかとよく聞かれる。しかし、これから介護士が不足する中で、地元介護福祉学校があるメリットはあると思っている。今後4年間で経営が改善できなければ、考えなければならない。定員を40人に落として40人確保できても、3,000万円から4,000万円の赤字は残る。それだけの赤字を出す価値があると町民の方に認めてもらうことが大事であり、一生懸命頑張りたい。

教育長：

介護福祉学校は厳しい状態にあるが、福祉課とも連携して、どうやって介護福祉学校が皆さんの役に立てるのか、町民に情報発信していきたい。現在、介護施設だけではなく、病院にも介護福祉士が入っている。また、国が大きくシフトしてきている在宅介護にも、介護する側の負担軽減へのノウハウを伝える役割を介護福祉学校が担えると考えられる。どうすればスムーズに介護ができるかというノウハウがあるので、町民の皆さんにお伝えしたい。削れるものはしっかりと削り、4年間の計画を立てた。できる限りのことをやり、最終的な町長の判断を仰ぎたい。

【富士川の浚渫に関して】

町民：

富士川の浚渫はどうなっているのか。

建設総括：

昨年のまちづくり懇談会で要望があり、令和元年から3年間の計画を進めている。

町民：

富士川の水の流れはとても良くなった。以前は大雨のたびに冠水していたが、今は畑に冠水することもなく、常に流れていて、とても助かっている。要望に応じていただき感謝している。

【夕張川に関して】

町民：

橋の横にある夕張川の木を切ったのはなぜか。

建設総括：

町は切っていない。

町民：

開発局ではないだろうか。

【道の駅に関して】

町民：

町にも道の駅を作ったらどうか。そういった要望はないのか。

町長：

要望としてはあがっており、私もできることならやりたいが、他の課題が山積している。ただの道の駅ではなく、もう少し特色のある総合的な施設を建てれば、かなりの集客が見込める。国道の4車線化も要請しており、国の補助を活用しながら、将来的には整備したいと思っている。

【防災対策に関して】

町民：

ハザードマップから三日月は漏れているが、川のそばに住んでいて、何があるかわからない。シューパロダムができたが、この辺の整備はダムが大きくなることによってなくなってしまったのか。

町長：

シューパロダムができる前から開発局に要請し続けている。これからも引き続き強くやっていきたい。今のハザードマップの想定よりも多い降雨量もあり得るため、国には要望をあげていきたい。開発局にも、夕張川全体が未整備であり、地域住民が非常に心配していると強く要請している。